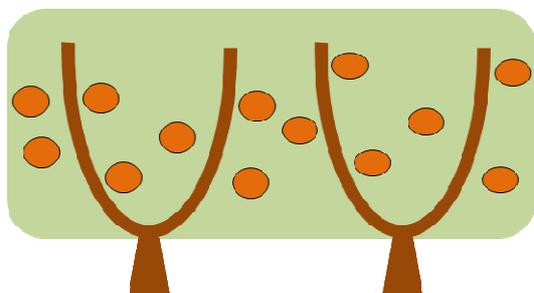


成園化した「早味かん」の 双幹樹形における適正な葉果比

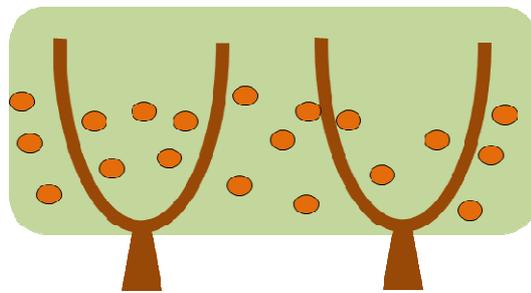
背景 双幹樹形「早味かん」の成園における適正な葉果比、収量および品質は不明でした。

成果の内容 成園化した双幹樹形「早味かん」は、葉果比15で管理することで、慣行の葉果比20と比較して収量および果実品質はほぼ同等で、摘果等の作業時間を大幅に短縮できます。

着果管理のイメージ図



葉果比20(慣行)



葉果比15

葉果比:葉数(枚)/果数(果)

令和5年 果樹部調査

樹形	葉果比	作業時間 (10a当たり)	果実品質		収量 (t/10a)
			糖度 (° Brix)	クエン酸 含量(%)	
双幹樹形	15	100.2時間	10.5	0.78	5.1
双幹樹形	20	134.8時間	9.6	0.65	5.1
開心自然形	20	166.4時間	10.6	0.69	3.8

開心自然形と比べて

- ・樹冠拡大の**抑制**
- ・作業時間が**短縮**
- ・収量(3カ年平均)は**同等以上**
- ・果実品質(3カ年平均)は**同等**

【研究者のコメント】

○双幹樹形の普及によって、生産者の労力が大幅に軽減されることを願っています

(果樹部 果樹育種・栽培チーム)